

大阪・関西万博 北欧パビリオン、アイスランドを旅するような1日
5/29(木)に「アイスランド・ナショナルデー」を開催
Ásgeir ら著名アーティストを迎え、初来日となるハトラ・トーマスドッティル大統領とともに
“対話”と“文化交流”を通じて、平和とジェンダー平等を考えるひとときを演出



デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンの北欧5か国による共同出展で注目を集める北欧パビリオンでは、2025年5月29日(木)、アイスランドによるナショナルデー「アイスランド・ナショナルデー」が盛大に開催されました。北欧5か国の共同出展における各国ナショナルデーの一環として行われたこの日は、世界1のジェンダー先進国(※1)として知られるアイスランドとして「平和とジェンダー平等」をテーマに、アイスランドらしい文化と価値観に触れられる、まるでアイスランドを旅するような多彩なプログラムが展開されました。

※1:「ジェンダーギャップ指数」ランキングで16年連続世界1位にランクイン(2024年発行)

本イベントは、午前の日本とアイスランドから様々な特別ゲストを迎えた対話を中心としたセッションで幕を開けました。ハトラ・トーマスドッティル大統領を始めとするアイスランドから来日したゲスト自らがSDGsやジェンダー平等について語る貴重な機会を提供しました。午後にはハトラ・トーマスドッティル大統領が北欧パビリオンをご見学され、アイスランドのアーティストが今回の展示のために書き下ろしたサウンドトラックが流れる空間や、アイスランドのデザイナーユニット、フリエッタ&イルラリ (Flétta and Ýrurari) によるウール産業で残ってしまったウールを使っ

たアートパフォーマンス「ピザタイム (Pizza Time)」を楽しめました。大統領のご挨拶や Ásgeir (アウスゲイル) や JFDR (ヨウフリズル・アウカドッティル) といった著名アーティストのパフォーマンスを含む公式セレモニーをもって、文化交流と対話が紡いだアイスランド・ナショナルデーは、平和と平等への願いと共に力強くも穏やかにその幕を閉じました。

■ 午前の部：対話でひらくジェンダー平等の扉

未来、平和、そして SDGs について若者とトークセッション (国連パビリオン)

アイスランド・ナショナルデーは、国連パビリオンでのディスカッションで幕を開けました。ハトラ・トーマスドッティル大統領が登壇し、日本および世界各国の若者たちと「平和」や

「SDGs (持続可能な開発目標)」、「これからの未来」について対話を交わし



ました。広島を拠点とする放送局 RCC 中国放送のアナウンサー・中根由起氏をモデレーターに迎え、国連パビリオンの国連事務次長兼国連パビリオン陳列区代表を務めるマヘル・ナセル氏による開会挨拶から始まり、アイスランド国連ユース代表からのビデオメッセージ、大統領によるショートスピーチののちに、パネルディスカッションが行われ、様々な意見が飛び交うインタラクティブなセッションとなりました。

本プログラムの中では、気候変動や社会的不平等、テクノロジーの変化といった世界的課題に焦点を当てながら、平和が SDGs 達成の土台であることを強調。17 年連続世界で最も平和な国

(※2) に選ばれ、また世界で最もジェンダー平等が進んだ国とされるアイスランドの視点から、大統領が自身の



経験とともに、より良い未来に向けて若者の声や提案を引き出す貴重な機会となりました。

※2：「世界平和度指数（Global Peace Index, GPI）」で 17 年連続世界 1 位にランクイン（2024 年発行）

はじめに、マヘル・ナセル国際連合事務次長補兼国連パビリオン陳列区代表が

「私は、長い間、平和を見てこなかった場所から来ました。そして、平和の中で暮らしている人々は、普通の生活を送るためには「平和」がいかに重要で不可欠であるかを理解していると思います。そ

それは、すべての人が健やかに、平和に、そして平等に生きられる世界を創るための前提なのです。その未来には、私たち全員が協力し合う必要があります。政府や組織だけでなく、私たち一人ひとりの行動が必要です。この議論から何かを感じ取り、それを今後に活かしていただければと思います。」とご挨拶されました。



ハトラ・トーマスドットティル大統領からも「若い世代の皆さんと対話できるこの場を非常に楽しみにしていました。私自身、自身のキャリアの中の多くの時間でジェンダー平等に携わってきました。特に私が重要と考えているのが世代間の平等です。現在多くの課題を抱えている世界において、希望あふれる未来をつくるためにはユース世代と世界を牽引する私達のような世代の間での議論が大事と考えているからです。皆さんと希望のある未来に向けて、対話できることを大変楽しみにしております。」とご挨拶がありました。

健康問題・子ども兵士の問題・持続可能なエネルギーなどの問題に真摯に向き合う 2 名の学生と国連パビリオンスタッフを迎えたトークセッションでは、「アイスランドは世界で最も幸せな国の 1 つですが、自立した市民を築き上げるためにどのようなサポートを提供していますか。」「世界には多くの課題があるなか、なかなか解決に至らない問題を目の前に落ちて込んでしまうこともあると思いますが、どのように前に進むべきですか。」等の質問が挙がりました。ハトラ・トーマスドットティル大統領は、ご自身の経験を軸に「あなた方は希望の象徴です。行動をして困難な課題を解決しようとしていることに感謝します。今のように複雑で困難な世界においては、恐れ、怒り、落ち込みなどの様々な感情が浮かぶでしょう。ただ、何かが壊れているということとは、光があるということです。北欧の中でもアイスランドは「クレイジーな国」だ

と自認していますが、そのクレイジーさがクリエイティビティや異なるアイデアに繋がり、様々な課題を抱える世界の中で変化を遂げる上で大事なのではと考えています。」など、親身にお答えになりました。

「世界ではじめての女性大統領のはなし」をテーマにしたトークセッション（北欧パビリオン）

北欧パビリオン内のイベントスペースでは、「世界ではじめての女性大統領のはなし」と題したトークセッションが行われ、絵本作家ラウン・フリーゲンリング氏と翻訳者・詩人の朱位昌併氏が登壇。**アイスランド初、そして世界初の女性民選大統領**であるヴィグディス・フィンボガドッティル氏の人生を軸に、女性のリーダーシップの可能性や多様性について語らうひとときとなりました。



セッション冒頭ではアイスランドの首都のレイキャヴィーク市長のヘイザ・ビョルグ・ヒルミスドッティル氏から「本セッションは一見遠く離れた国々である日本とアイスランドに共通する「文学」についてです。今回ご紹介する絵本『ヴィグディス』は、アイスランドで最も敬愛される人物の1人、世界初の女性民選大統領ヴィグディス・フィンボガドッティルさんの人生に着想を得た作品です。この力強い物語が、日本語でも読めるようになったことを心から嬉しく思います。」というご挨拶から始まり、子どもから大人まで参加しやすい、柔らかな語り口で進行されました。

フリーゲンリング氏は、ジェンダー平等1位とされるアイスランドにも課題があるとし、「平等は獲得して終わりではなく、学び続ける必要がある」と語りました。また、ヴィグディス氏の絵本を手がけた経緯や、ご本人への取材エピソード、選挙時に受けた偏見なども語られ、象徴的なリーダーとしての歩みを紹介。育児休暇制度についてなど家庭内の平等にも話が及びました。会場からはジェンダー平等に関する質問

も飛び交い、世代を超えて取り組むべき課題としてのジェンダー平等を体感するセッションとなりました。

■レイキャヴィーク市長・ハイザ・ビョルグ・ヒルミズドッティル氏のコメント：

今回、私たちのプログラムのテーマは「平和と平等」です。そして本日の話題は、時代と国境を超えて響くテーマです。それは、一見遠く離れた国々である日本とアイスランドに共通する「文学」についてです。物語は、私たちのアイデンティティを受け継ぎ、次の世代を鼓舞



します。日本の昔話も、アイスランドの伝説も、想像力と共感の橋を大陸を越えて架けてくれます。言葉の壁を超えて、心が繋がるのです。

私たちの首都レイキャヴィークにとって、文学は単なる伝統ではありません。日々の暮らしや私たちのアイデンティティを形づくる「生きる力」です。レイキャヴィークは2011年、ユネスコの「文学都市」に認定されました。これは、私たちの豊かな文学と文化が国際的に認められた証です。

日本と同じように、私たちも詩人や作家を深く敬愛し、物語の世界を分かち合うことを大切にしています。言葉には国境を越える力があり、私たちは積極的に文学プロジェクトや国際的な交流に取り組んでいます。

ひとたび物語が他言語に翻訳されるとき、その物語はもはや一国のものではなくなります。それは、世界が共有する物語となり、国境を越えた友情を育むきっかけとなるのです。

本日举行される、作家のラウン・フリーゲンリングさんと翻訳家の朱位昌併さんによる会談は、そのような取り組みの美しい事例です。

今回ご紹介する絵本『ヴィグデイス』は、アイスランドで最も敬愛される人物の一人、世界初の女性民選大統領ヴィグデイス・フィンボガドッティルさんの人生に着想を得た作品です。ラウンさんの独創的なイラストと洗練された文章によって、読者は政治の世界に大きな変革をもたらした一人の女性の物語へと引き込まれます。ヴィグデイスさんはアイスランド国内にとどまらず、世界に影響を与えた存在であり、今もなお、勇気と誇りの象徴です。この力強い物語が、日本語でも読めるようになったこ

とを心から嬉しく思います。自分の言語で物語を読むことは、非常に大切なことです。

近年では、日本文学のアイスランド語への翻訳も増えています。それは、日本文学に対する関心が高まっている証でもあります。日本とアイスランドの文学的な絆を、偶然ではなく、人間性の共有という観点から育んでいきましょう。

レイキャヴィーク市を代表し、このように温かく迎えていただいたことに、心より感謝申し上げます。特に、日本の皆さまがアイスランドの文化と来訪者を温かく受け入れてくださったことに、深く感謝いたします。

ハトラ・トーマスドッティル大統領と語るジェンダー平等・女性のエンパワーメントに関するトークセッション（ウーマンズ パビリオン in collaboration with Cartier）

続くプログラムでは、ウーマンズ パビリオン in collaboration with Cartier（以下ウーマンズ パビリオン）の「WA」スペースにて、ハトラ・トーマスドッティル大統領が登壇。モデレーターにジャーナリストの大門小百合氏を迎えてトークセッションが行われました。2009 年、社会に変革をもたらす女性起業家を支援する、**カルティエの国際プログラム「カルティエ ウーマンズ イニシアチブ」**を受賞し、ファイナンスのバックグラウンドを持ち、**アイスランド商工会で初の女性 CEO** を経て政治の世界に転身し、史上 2 人目の女性大統領となったハトラ・トーマスドッティル大統領が女性のエンパワーメントと持続可能な社会に向けた行動について、自らの歩みや経験をもとに語られました。「現在アイスランドの 3 党連立政権の党首が全員女性です。こういったマイルストーンや政策を経て達成したのでしょうか。」「なぜ民間でのキャリアを積んでいたところ、大統領を目指し、政治の世界に飛び込んだのでしょうか。」「ご自身のロールモデルはいらっしゃいますか。」等の、率直で示唆に富む対話が展開され、両国の学びが多い濃密なひとときとなりました。



■北欧パビリオン・アイスランド政府代表ラグナル・ソルバルダルソンのコメント：

ウーマンズ パビリオンのセッションは、アイスランドのジェンダー平等への道のりをお話させていただきます。1975 年、アイスランドでは国の女性の約 90%が一斉に仕事を休む“1 日ストライキ”を行いました。彼女たちは、働くのをやめ、料理も掃除も育児も一



切行いませんでした。国全体がストップし、やっと社会が耳を傾けたのです。この大胆な施策の 5 年後、世界で初めてアイスランドで女性大統領が選出されました。それ以来、私たちはジェンダー平等を目指して法律、制度、政策を整備してまいりました。そこにあるのは、「平等は公平であるだけでなく、賢明でもある」というシンプルな真実です。実際、北欧諸国では、長期的なジェンダー平等への投資（例えば、普遍的な保育制度、男女の育児休暇、平等な教育機会）が社会の安定と繁栄に繋がっていることが示されています。日本は、教育とイノベーションに多大な投資をしてきた国です。女性の教育アクセスに関しては世界でも上位にランクインしています。しかし、多くの国と同様に、それがリーダーシップや経済参加に直結していないという課題もあります。だからこそ、私たちは対話と相互の学び合いを通じて、お互いから多くを学ぶことができると信じています。

今、どのようなリーダーシップが必要かを問う必要があります。現在、アイスランドは首相、外務大臣、国家警察長官、レイキャビク市長、そして大統領が女性であり、新しい世代のリーダーシップを体現しています。本日まで登壇いただくのは、この精神を体現するお二人の女性です。彼女たちは言葉と行動を通じて、常にジェンダーの境界を押し広げています。本セッションは、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに関して、行動につながる前向きな気づきを私たちに与えてくれると確信しています。

■午後の部：アイスランドのサステナビリティとアートが交差

アイスランドの文化が広がる北欧パビリオンを一般公開

午後は北欧パビリオンを中心としたプログラムが展開されました。展示ホールでは、アイスランドで活躍するシンドリ・マウル・シグフソン（Sin Fang）とキヤルタン・ホルム（Kjartan Hólm）が今回の展示のために書き下ろしたサウンドトラックと共

に、ビジュアルアート作品「The Circle of Trust」を展開。ビジュアルアート作品を手掛けたアイスランドのデザインスタジオ Gagarin からデザイナーを招き、制作者本人によるガイドツアーが行われました。デザイナーによるガイドツアーは大統領のみならず、一般の来場者の皆様もお迎えして実施しました。展示作品は今後も北欧パビリオンでご覧いただけます。



また、北欧パビリオン前では、ウール産業の残り素材を再利用し、ピザスライス型のアート作品を制作するアイスランドのデザイナーデュオ、Flétta and Ýrúrarí（フリエッタ&イールラリ）によるアートパフォーマンス「ピザタイム（Pizza Time）」が実施されました。抽選に当選した一般来場者に、世界に一つだけの特別なウールのピザがプレゼントされ、アイスランドらしいユニークで環境に優しい取り組みに、北欧パビリオン前にも笑顔が溢れるひとときとなりました。



公式式典：大統領の言葉とともに、音楽で締めくくる 1 日



夕方にはナショナルデーホール「レイガーデン」にて、公式式典が華やかに開催されました。ハトラ・トーマスドッティル大統領が再び登壇し、「北欧パビリオンの一員としてこの場に参加できることを誇りに思います。北欧諸国は 1 つです。単独で

はどの国も小さな国ですが、5 カ国が結束することで世界第 11 位の経済圏を形成しています。日本のことわざにもあるように、『一本の矢は簡単に折れても、束になれば折れない』のです。」と挨拶され、来場者の皆様から大きな拍手が送られました。

日本政府代表として、経済産業副大臣 内閣府副大臣 古賀友一郎参議院議員からも「日本とアイスランドは、1956 年の外交関係樹立以来、約 70 年にわたり、両国は深い友情と信頼関係を築いてまいりました。アイスランドは火山や氷河など、独特の地形・地勢環境を有する島国であり、同じく島国である日本とは、地震や火山活動が活発である点、また伝統的に漁業が盛んである点など、多くの共通点を持っています。本万博を通じて、両国の相互理解がさらに深まっていくことを心より祈念いたします。」との祝辞が述べられました。



続いて行われたスペシャルパフォーマンスでは、アイスランド音楽の魅力が存分に披露されました。シンガーソングライターの JFDR（ヨウフリズル・アウカドッティル）は、その独自の世界観と静けさの中に潜む力強さで、聴く人の心に深く残るステージを披露。



続いて 2023 年フジロック以来の待望の来日パフォーマンスとなる Ásgeir（アウスゲイル）は、情感あふれるボーカルで会場を魅了。



作曲家・ピアニストの Gabríel Ólafsson（ガブリエル・オラフス）は、ピアノとストリングスによる繊細な旋律で、静かながら力強い時間を作り出しました。



3 人のアイスランドを代表するアーティストによるパフォーマンスは、来場者の心に深い余韻を残し、アイスランドの奥深い文化と精神性に心が動かされるような特別な時間となりました。

万博会場のご見学

ハトラ・トーマスドットイル大統領は日本館および迎賓館を訪問され、日本の伝統文化や最先端技術に触れる機会を持たれました。これにより、日本への理解を一層深められました。



日本館



迎賓館

■ハトラ・トーマスドットイル大統領のコメント：

まず初めに、この美しい国を訪問するにあたり、日本政府、2025 年大阪・関西万博の主催者の皆様、そして日本国民の皆様から素晴らしいおもてなしをいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

日本とアイスランドは地球の反対側に位置していますが、数十年にわたる協力と相互の文化的尊重に基づき、良好な関係を築いてきました。

両国には、自然によって形づくられた深い結びつきがあります。どちらも海に囲まれた島国であり、地熱エネルギーに恵まれ、活発な火山活動がもたらす壮大な自然の力を有しているという共通の特徴があります。

アイスランドのシーフードは日本でも広く知られ、高く評価されています。それは、持続可能な方法で収穫され、健康に良い最高品質のシーフードであるという、私たちの価値観を反映しているからです。

私たちは日本の皆様から多くのことを学んできました。シーフードの調理や提供における美意識、礼儀作法へのこだわりを深く理解するようになり、それはアイスランドで日本食が人気を博していることにも表れています。

私自身、日本の食文化を深く愛しており、約 25 年前にアイスランドで初めて開業した寿司と焼き鳥のレストランに関わったことを、誇りに思っています。

「平和」と「平等」は、アイスランド社会の中核をなす重要な価値観であり、私にとっても特別な意義を持つものです。そのテーマを掲げたこの万博の「アイスランド・ナショナルデー」において、ご挨拶の機会をいただけたことを光栄に存じます。

本今朝には、国連パビリオンにて、関西地方の若者たちと平和や持続可能な開発目標について議論を交わしました。彼らの発言は思慮深く、熱意にあふれており、大変感動いたしました。

また、「ウーマンズ パビリオン in collaboration with Cartier」の「WA スペース」にて、ジェンダー平等に関するトークセッションにも参加いたしました。女性の視点の共有は重要である一方、変化の主体は私たち全員であることも明らかです。つまり、男性や少年もこの対話に積極的に関わっていくことが不可欠です。

文化交流は、両国の関係において大きな役割を果たしてきました。音楽、文化、デザインなどの分野において、アイスランドのアーティストは日本で長年にわたり多くのファンに迎えられてきました。一方で、アイスランドもまた、日本の創造性や伝統から多くのことを学んでいます。

私は、親しいパートナーであるデンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンと共に、北欧パビリオンの一員としてこの場に参加できることを誇りに思います。北欧の協力は、私たちのアイデンティティと理念の重要な部分を成しています。私たちは、経済と社会の進歩の中で「人と地球の幸福」を掲げるという方針こそが正しい道であることを実証してまいりました。社会は、分裂ではなく協力を選ぶことでより平和になり、すべての人に平等な機会を確保することで、より公正になります。

この素晴らしい万博を主催し、国際的な対話と理解の醸成に貢献している日本に、改めて感謝申し上げます。アイスランドと日本は、規範に基づく国際秩序を堅持するという志を共有する国同士です。

私にとって、今回の訪日が大統領として初のアジア訪問となりましたが、今後も何度でも訪れたいと思っています。そして両国の関係がさらに強化されていくことを、大いに期待しています。

この体験を可能にしてくれた献身的なチームの皆さんに、心より感謝いたします。彼らの熱意と努力は、北欧協力の精神そのものを体現しています。

北欧諸国は1つです。そして、私たちは日本との長きにわたる実り多い関係に、これまでも、そしてこれからも感謝を捧げ続けてまいります。

■経済産業副大臣 内閣府副大臣 古賀友一郎参議院議員のコメント：

「アイスランド・ナショナルデー」にあたり、ご挨拶申し上げます。ハトラ・トーマスドッティル大統領ご夫妻、並びにご列席の皆様、本日はハトラ・トーマスドッティル大統領ご臨席のもと、「アイスランド・ナショナルデー」が開催されましたことを、日本政府を代表して心よりお祝い申し上げます。

日本とアイスランドは、自由、民主主義、人権、法の支配といった基本的な価値や原則を共有する、重要なパートナーです。1956年の外交関係樹立以来、約70年にわたり、両国は深い友情と信頼関係を築いてまいりました。

アイスランドは火山や氷河など、独特の地形・地勢環境を有する島国であり、同じく島国である日本とは、多くの共通点を持っています。

さらに、アイスランドは世界有数の地熱発電先進国であり、地熱発電設備の規模では世界第9位を誇ります。アイスランド国内で使用されている地熱発電機器の多くが日本製であるなど、再生可能エネルギー分野でも両国は深い結びつきを持っています。こうした背景を踏まえ、2023年にはアイスランドの環境・エネルギー・気候省と日本の経済産業省との間で、地熱分野における協力強化に向けた共同声明が合意されま

した。皆様、ネットゼロの達成に向け、ともに持続可能な社会の実現を目指してまいりましょう。

また、アイスランドは世界経済フォーラムによるジェンダー・ギャップ指数で、15年連続で世界第1位を維持しており、ジェンダー平等の分野においても日本が学ぶべき先進的な取り組みが数多くあります。

最後に、私自身も先ほど、北欧5カ国共同の「北欧パビリオン」にて、「北欧とともに、より良い明日へ」というテーマのもと、持続可能な未来や北欧の価値観を反映したアイスランドの素晴らしい展示を拝見いたしました。これらの展示やイベントを通じて、両国の相互理解がさらに深まっていくことを心より祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。

■ラグナル・ソルバルダルソン（北欧パビリオン・アイスランド政府代表）のコメント：

このナショナルデーを通じて、私たちの社会が掲げる“平和”と“平等”という普遍的な価値を、芸術と対話というかたちで発信できたことを誇りに思います。来場者の皆様の笑顔や温かい反応からも、文化が人と人をつなぐ力を改めて実感しました。

アイスランド・ナショナルデーは、北欧パビリオンが提唱する「北欧とともに、より良い明日へ」というテーマを、文化と対話の力で具現化した象徴的な1日となり、北欧諸国が大切にする価値観が、国や世代を超えて響き合うひとときとなりました。残すところ北欧パビリオンのナショナルデーも、6/2(月)のノルウェーと6/12(木)のフィンランドの2カ国となりました。

北欧パビリオンでは今後も、各国のナショナルデーや個性あふれるテーマ展示を通して、サステナビリティやテクノロジー、イノベーションの価値を来場者の皆様にお届けしてまいります。

北欧パビリオンのオフィシャル素材のダウンロードはこちらから。

[メディア | Nordic Circle](#)

本イベントのオフィシャル素材のダウンロードはこちらから。

<https://app.box.com/folder/323138392614?s=vyh7u02056k2g6qp0ynncwyv331bpplx>

ウーマンズ パビリオン in collaboration with Cartier のオフィシャル素材のダウンロードはこちらから。

スチール：

<https://drive.google.com/drive/folders/1U65eeHoImxVZOJJh76uguRh2xrfM5sjn>

※クレジット：Victor Picon ©Cartier

ムービー：

<https://drive.google.com/drive/folders/1V24MYqSZh9hyNQQ7DE17BVrxWuPX6cxw>

※クレジット：©Cartier

【北欧パビリオンについて】

人口 2,700 万人、GDP1 兆 6,000 億米ドルを誇るヨーロッパ第 5 位、世界第 10 位の経済規模を持つ北欧 5 カ国（デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン）からなるタイプ A のパビリオンです。北欧 5 カ国パビリオンの万博参加は、2025 年で 3 回目となります。2025 年の大阪・関西万博では「ノルディック・サークル～北欧と共に、より良い明日へ～」をコンセプトに、北欧 5 カ国がより良い未来に向かって世界をリードするテクノロジー、イノベーション、サステナビリティの 3 つの分野での先進的な取り組みをご紹介します。

【公式ウェブサイト】

<https://thenordics-expoosaka.com/jp/home>